

シンポジウム | 特別講演

歯科衛生士シンポジウム

歯科衛生士が知っておきたい多職種連携のための Up to Date

座長:小原 由紀(東京医科歯科大学大学院口腔健康教育学分野)、須田 牧夫(日本歯科大学口腔リハビリテーション科)

Sat. Jun 23, 2018 2:40 PM - 4:00 PM 第2会場 (1F 小ホール)

【小原 由紀先生略歴】

1998年 東京医科歯科大学歯学部附属歯科衛生士学校卒業

1998～2010年 開業歯科医院勤務

2008年 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科卒業

2010年 首都大学東京大学院修了・修士（健康科学）

2014年 東京医科歯科大学大学院修了・博士（歯学）

2014年～ 東京医科歯科大学講師，東京都健康長寿医療センター非常勤研究員（～現在）

日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（老年歯科）

日本歯科衛生士会理事

所属学会：日本老年医学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本歯科医学教育学会，日本歯周病学会，日本口腔衛生学会

【須田 牧夫先生略歴】

1996年3月 日本歯科大学歯学部卒業

1996年4月 日本歯科大学歯学部附属病院臨床研修歯科医師

1997年3月 同 修了

1997年4月 同 高齢者歯科診療科臨床研究生医員

2001年1月 同 総合診療科

2001年10月 同 口腔介護・リハビリテーションセンター併任

2003年4月 同 総合診療科助手

2007年4月 同 総合診療科講師

2011年4月 同 口腔リハビリテーションセンターセンター長

2014年4月 同 口腔リハビリテーション科講師

口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長代理

2015年4月 同 医長

2018年4月 日本歯科大学口腔リハビリテーション科臨床講師

現在に至る

【抄録】

超高齢社会が進む中，高齢者への食支援は今後ますますニーズが増していくと考えられます。歯科衛生士は，口腔衛生管理・口腔機能管理の観点から食支援に関わることになりますが，支援の質を向上させるためには，課題を明確化するため情報と目指すべきゴールを多職種と共有する必要があります。しかしながら，多職種連携は「言うは易く行うは難し」で，現場ではさまざまな課題に直面することになります。

今回，それぞれの職種の知識の基盤や視点をよく知ることが連携を円滑にする第一歩と考え，本シンポジウムを企画しました。草間里織先生の歯科衛生士からの問題提起に続き，看護師の柴崎美紀先生，言語聴覚士の石山寿子先生，管理栄養士の本川佳子先生より，それぞれの視点から食支援の実践のために把握しておくべき知識や連携のあり方について提言をいただきます。皆さんと最新情報へのアップデートと活発なディスカッションをしていきたいと思います。

[S10-4]高齢者の栄養ケア

ーオーラルフレイルから認知症までー

○本川 佳子¹ (1. 東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と精神保健研究チーム)

【略歴】

2006年 管理栄養士取得

2011年 東京農業大学大学院修了・博士（食品栄養学）

2011年 東京衛生病院栄養科管理栄養士

2012年 国立がん研究センター特任研究員

2014年 駒沢女子大学人間健康学部非常勤研究員

2015年 東京都健康長寿医療センター研究所非常勤研究員

2017年 東京都健康長寿医療センター研究所常勤研究員

その他

2016年～ 日本栄養士会管理栄養士専門人材育成事業摂食嚥下領域、在宅栄養管理領域認定委員会委員

2017年 日本静脈経腸栄養学会NUTRI YOUNG INVESTIGATOR AWARD受賞

2018年～ 東京都栄養士会栄養ケアステーション委員会委員

高齢者人口の増加に伴い、メタボ対策といった疾病予防だけではなく、フレイルといった予防医療の対象に関するパラダイムシフトが起こり、食事に関しても高齢期では「多様な食品をバランスよく」「しっかり」食べることに関心が向けられている。われわれの研究においてもフレイル重症度と食品摂取の多様性が関連し、さまざまな食品摂取がたんぱく質をはじめ抗酸化物質等といったビタミンやミネラルの十分な摂取につながり、フレイル対策に貢献する可能性を報告している。その食品摂取を支えるのは口腔機能であり、最近では総義歯作成とともに簡単な栄養指導により、栄養素等摂取量の増加と咀嚼機能が改善したことが報告され、歯科と栄養の連携によるシナジー効果に関する報告も散見されるようになってきた。本シンポジウムでは、オーラルフレイルから認知症までの栄養に関する知見や歯科と栄養連携に関する知見を紹介し、これからの高齢期のケアについて検討する。